

「新総合事業に参入して経営が悪化している」が7割にも 県社会保障推進協議会が介護保険の新総合事業で2回目のアンケート

「新総合事業」の安易な導入が介護保険制度の崩壊につながると危惧している新潟県社会保障推進協議会（坪谷誠会長）はこのほど、「新総合事業」についての2回目のアンケート調査を実施し、その結果を公表しました。

アンケートは上越市、妙高市で介護保険の予防訪問介護、予防通所介護に指定されている129の事業所を対象にして、「新総合事業に参入して経営状況はどうですか」「緩和されたサービスAについて、市が設定した報酬はサービスにたいして高いか低いかわさしいか」「同サービス提供にあたって困ったことや悩みはありますか」などを訊いたものです。

協議会によると、今回は52件、45.6%と昨年の倍以上（昨年は21.9%）の回収率となったとのこと。

事業所からの回答で特徴的だったのは、回答者の42件（73.6%）が、「新総合事業に参入して経営が悪化している」と答えていることです。自由回答欄にも「報酬は2割減で少なくなりました。今まで通りのサービスで報酬減なのに、登録ヘルパーの報酬は変わらないので売上が減った。これから有料ヘルパーが1時間500円の報酬を直接利用者から頂くことがスムーズに出来るか不安であるし、ボランティアがはたして出てくるか？本当にヘルパーが訪問しなくなつて弁当や掃除業者になつていくのか？利用者の把握が出来るのか心配である」、「緩和サービスは利用者様にとって、以前介護保険サービスの受けていた方にとってはさらに、同様のサービスを求めている多くの人たちは（利用者様）は自立を目指すのではなく、常にヘルパーや介護員を頼ることを考えているようだ。包括によつても考え方が少し違っている感じもある。事業所側としては、同じ時間や人件費が

かかるのに単価が非常に少ないことが悩みである」、「介護報酬が低すぎて大変です。悪く言うと、サービスでサービス提供しているようなものです」などという声がかかれていました。協議会では、アンケート結果について、「経営的な側面からは新総合事業をやりたくないが、事業者としての責任感や使命感に支えられて、ボランティアのようなサービスを提供している姿が浮かび上がる」、「このような状況が続けば、事業所の撤退、廃業が現実のものとなり、介護保険制度が崩壊することは必至である」と危機感を持って今後、運動を強めていかなければならないとしています。

大雨を想定した総合防災訓練
浦川原区で1500人以上参加

8月27日、浦川原区で行われた上越市の総合防災訓練に参加してきました。1500人を超える人たちが訓練に参加したそうです。



今回の訓練は上越市東部に大雨が降つて、土砂災害や河川の氾濫危険状態などを想定した内容となりました。緊急情報伝達訓練、指定避難所への避難訓練、要配慮者の老健施設への避難と誘導



【ゴマナ】キク科の多年草。漢字で、「胡麻菜」と書きます。野菊の中ではおそらくこの花が一番大きなものだと思います。葉はたしかに胡麻に似ていますね。写真は太出口泉水付近の道路脇で撮りました。

訓練、医療救護所開設訓練、水難救助訓練などが行われました。

このうち、緊急情報訓練では防災行政無線の屋外拡声器の音がよく聞こえませんでした。よく聞こえないという指摘は今回だけではありません。きつちりと調べる必要があります。注目した訓練のひとつは水難訓練です。消防署のはしご車が水難事故でも活用（右の写真）できることを初めて知りませんでした。ロープを使った救出も消防署のプロならではのものでした。



丸い絵手紙

高田のYさんから丸い絵手紙をいただきました。直径25㍉ほどの丸い和紙に描かれた赤い花はポピーでしょうか。パソコンの上で写真を撮ったら、お月さんのような感じになりました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1772 2016.9.4
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら
橋爪法一 検索

春よ来い

第四一九回

退院前日

いよいよ明日が退院という日に弟が入院している病院へ行ってきました。相部屋ですが、病室にいたのは弟だけでした。病室からは病院へ来る車が見えるんですけど「見えたよ」と弟が言いました。病室からは病院へ来る車が見えるんですけど「見えたよ」と弟が言いました。病室からは病院へ来る車が見えるんですけど「見えたよ」と弟が言いました。

退院を前にして、片付けや挨拶などは終わったかと訊いたところ、はっきりとは答えませんが「退院当日で間に合う」という意思表示だったのかも知れません。少し間をおいて、弟はテレビの脇からB4サイズのスケッチブックを取り出しました。

最初に広げて見せてくれたのは、真ん中に大きく「ありがとう」という文字が書かれていて、その周辺にも様々な大きさの「ありがとう」という文字が緩やかなかたまりになつて書かれている絵です。「ありがとう」の文字の周りには日めくりカレンダーからはぎ取られた九一枚の紙が描かれていました。

弟が事故で両足を骨折し、救急車で病院に運ばれたのは六月一日でした。事情でその日のうちに手術ができず、足がはれてしまったことから、十日ほど経つてやっと手術ができるようになりました。手術が成功してからはきびしいリハビリです。日めくりカレンダーの一枚一枚に苦労や思い出がつまっていたようです。

退院までには、本人の一日一日の努力の積み重ねがあります。絵では、それを支えた人たちがいて、そのおかげで退院できることが見事に表現されていました。退院するその時に、この絵はお世話になった看護師さんに贈るのだと弟は言っていました。

入院生活を支えるものは患者に共通のものもあれば、個別のものもあります。弟にとつては一冊の本が大きな励みになったようです。それは「暮しの手帖」の初代編集長のことを紹介した『花森安治』（「暮しの手帖」別冊）というタイトルの本です。

「これ見ると朝のドラマ、『とと姉ちゃん』のこと、だいたいわかるんだよね」そう言つて話を始めた弟は、旧源中学校の藤田英夫先生（故人）が発行していた学級新聞のタイトルや見出しの字体が花森安治のものに似ていることや、恩師だった田村憲世先生の書かれた文字がきれいだったことなどを次々と教えてくれました。

入院生活の中では、『花森安治』を繰り返し読み、大きな影響を受けたようです。スケッチブックの中には、童話の挿絵になりそうなピンク色の屋根の家、長い髪の女性の絵もありました。これらはこれまで弟が描いてきた絵のタッチとは違うものでした。花森安治の絵を真似たものだと思います。

病室での話はずんずん分くらい経つたときでしょうか。「兄貴に一度会つてみたいという人がいるんだわ」と言つていた弟が病室からいったん離れ、その人、そしてその人のお連れ合いと思われる人と共に戻ってきました。私に会つてみたいという人は柿崎区在住で同じ病院に入院中のKさんでした。私にとつては初対面の人です。

Kさんが生まれたのは吉川区村屋（山直海）にあったバスの車庫の二階で、そこに四年ほど住んだことがあると言います。お父さんはバスの運転手さん、家族の人や車掌さんたちは近くのMさん宅で五右衛門風呂に入れてもらったという事も聞きました。弟は、Kさんがいたおかげで入院生活はさみしい思いをしなくてすんだそうです。

三か月にわたる入院生活では病院スタッフの皆さんだけでなく、入院患者の人たちからも励ましてもらつていたんですね。退院の日、弟は、お世話になった入院患者のみなさんやお医者さんなどに挨拶をしたはずですが、その際、涙もろくて、少々恥ずかしがり屋の弟はどんな顔をして「ありがとう」の絵を看護師さんたちに贈つたのでしょうか。

水道の石綿セメント管更新は一部を除き完了

平成27年度決算審査にあたって、水道の石綿セメント管更新事業が他工事と関連する部分など一部を除き完了したことが報告されました。耐震性や安全性で問題ありとされ

てきた石綿セメント管はこれまで計画的に更新され、平成27年度は吉川区において配水管2608延分の工事が行われました。

ガス水道局によると、現在、未更新延長は2266延分。このうち573延分は吉川区の原之町と山方間の配水管です。ここは現在取り組まれている県道改良工事（写真）に併せて更新することと、平成30年頃までかかりそうとのこと。残る1693延分は清里区です。ここは



10月から12月の間だけ使用している導水管で、更新対象外です。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月24日(水)	8月31日(水)
上越南消防署	0.037	0.047
上越北消防署	0.050	0.057
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.053	0.060
東頸消防署	0.053	0.053
高士分遣所	0.043	0.043
名立分遣所	0.053	0.057

朝日新聞の菅沼さんを囲んで地域自治の勉強会

8月26日、柿崎コミュニティプラザにおいて、柿崎区などの地域協議会委員や元委員など15人が集



まって、上越市の地域自治区や地域協議会の仕組みについての勉強会が行われました。

会では朝日新聞社の菅沼栄一郎さんが報告し、参加者が意見交換をしました。

菅沼さんは上越市の地域自治区、地域協議会の、これまでの動きを解説。参加者は、「女性委員が少ない」「もっと権限を」など協議会の課題や今後の方向などについて次々と発言しました。合併後10年以上経過するなかで、地域協議会の役割を改めて考えるいい機会になりました。